

富士宮ミニサッカー・ルール

競技規則抜粋

【1、競技場】

- ・縦方向（タッチライン）25m～42m
- ・横方向（ゴールライン）15m～25m 　ただし正方形であってはならない。
- ・ペナルティエリア　　両ゴールポストから半径6mの4半円、ゴール正面は直線でつなげる
- ・ペナルティマーク　　ゴール中心から6mのペナルティエリアライン上
- ・センターサークル　　半径3m
- ・選手交代ゾーン　　交代ゾーンは、チームベンチの直前に設け、その長さはそれぞれ5mとする。その両端をタッチラインに直角に幅8cm、長さ80cmで描く、80cmのうち40cmをピッチの内側、40cmをピッチの外側に描く。ハーフウェーラインとタッチラインの交点と各交代ゾーンの近い側の端との距離は、5mである。

【2、競技者の人数】

- ・1チーム5人。そのうち1人はゴールキーパー。GKはユニフォームの色を他の競技者と変えなければならない。
- ・選手交代はインプレー中でも自由に行うことができるが、交替する選手が完全に競技場の外に出てから交代選手は交代ゾーンから競技場に入らなければならない。GKの交代はアウトオブプレーのときに限られ、主審に交代を告げてから行う。
- ・一度交代で外に出た選手でも再び交代してプレーすることができる。

【3、ボール】

- ・ボール4号球とする。
- ・ボールは2mの高さから落として、第1バウンドが50cm以上65cm以下とする。

【4、ゴール】

- ・高さ2m、幅3m。ハンドボールゴールと同一。

【5、審判】

- ・主審1名、副審1名の2名で行う。両審判ともホイッスルを持ち、両タッチライン上（外）で同等に判定を行う。しかし主審の判定を最終的なものとする。

【6、競技時間】

- ・前半　分、後半　分の計　分とする。ハーフタイムは　分。
- ・計測はランニングタイムとする。

【7、競技の開始】

- ・前後半のスタートと得点後の再開はキックオフで行われる。
- ・キックオフから直接得点することはできない。

【8、アウトオブプレー】

- ・ボールのすべての部分がタッチラインまたはゴールラインを越えて出たときにアウトオブプレーとなる。ボールが少しでもラインにかかっているときはインプレー。

【9、反則】

(直接フリーキックとなる反則)

- ・キッキング
- ・トリッピング
- ・プッシング
- ・ストライキング
- ・ホールディング
- ・ジャンピングアット
- ・バックチャージ
- ・ハンドリング
- ・ショルダーチャージ(サッカーで正当とされるものも不可)
- ・スライディングタックル(サッカーで正当とされるものも不可)

直接フリーキックは反則があった場所で行われる。相手選手はボールから5m離れなければならない。

(間接フリーキックとなる反則)

- ・危険なプレー、反スポーツ的なプレー
- ・オブストラクション
- ・キックイン、フリーキック、コーナーキック、ゴールクリアランスを4秒以内に行わなかったとき。
- ・GKが4秒以上ボールをキープした場合。
- ・ゴールキーパーが、保持していたボールを離した後、ボールがハーフウェーラインを越える前に、または相手側によって触れられるかプレーされる前に、味方競技者からボールを受ける。

- ・GKへのバックパス(キックイン、フリーキックからのバックパスも同等)をGKが手で扱った場合。
- ・キーパーはノーバウンドで直接ハーフラインを越えてはならない。越えたときは、ハーフライン上の任意の位置から相手側の間接フリーキックとなる。(13、GKのプレー参照)

間接フリーキックは反則があった場所で行われる。相手選手はボールから5m離れなければならない。ペナルティエリアでディフェンス側選手が反則を犯した場合は、その地点からもっとも近い6mライン上にボールをおく。

なお、オフサイドはない。

競技者が次の違反をした場合、警告が与えられる。

- ・反スポーツ的行為をすること
- ・審判の下した判定に、言葉や行動で意義を示すこと
- ・繰り返し競技規則に違反すること
- ・交代の手続きの違反をすること(交代ゾーン以外からの入退場など)

競技者が次の違反をしたと審判が判断した場合、退場が命じられる。

- ・著しく不正なプレーをすること(得点機会阻止等)
- ・乱暴な行為をすること
- ・警告を命じられる違反を2度すること
- ・汚い、または侮辱的発言をすること

退場を命じられた競技者は、以後その試合に復帰することは出来ないし、ベンチに着席することも認められない。そのチームは退場後得点の無い場合には、2分経過した後に競技者を補充することが出来る。

(1人少ないチームが得点された場合には、そのチームの競技者を補充できる。両チーム同数の競技者が退場になっている場合には、得点があっても共に補充できない)

【10、ペナルティキック】

- ・キッカー以外はペナルティエリアから出なければならない。またキッカー以外の選手はペナルティキックマークから5m以上離れなければならない。

【11、キックイン】

- ・ボールがタッチラインから外に出た場合は相手側選手のキックインで競技が再開される。
- ・キックインはタッチライン上にボールを完全に静止させてから4秒以内に蹴るが、走りこんで蹴ってもよい。
- ・相手選手は5m以上離れなければならない。
- ・キックインからの直接ゴールは認められない。
- ・キッカーの立ち足はライン上またはラインの外に置かなければならない。ラインを完全に踏み越えて蹴った場合には相手側のキックインとなる。

【12、ゴールクリアランス(キーパーズロー)】

- ・ボールが攻撃側の選手に最後に触れてゴールラインから出た場合はゴールクリアランスにより競技が再開される。方法はGKがペナルティエリア内から手で投げる。これはゴールキックの代わりである。
- ・ボールがペナルティエリアから出たときにインプレーとなる。
- ・ゴールクリアランスからのボールが相手ゴールに直接入っても得点にはならない。
- ・ノーバウンドで直接ハーフラインを越えてはならない。越えたときは、ハーフライン上の任意の位置から相手側の間接フリーキックとなる。

【13、GKのプレー】

- ・キーパーがインプレー中にボールを取ったときは手で投げるか、蹴ることができる。ただし手から直接蹴られたパントキックのボールは、ノーバウンドでハーフラインを越えることはできないが、手から放してフィールド上に置かれたボール、またはワンバウンドさせてあとにドロップキックされたボールはノーバウンドでハーフラインを越えてもよいし、直接ゴールに入った場合は得点が認められる。
 - ・ペナルティエリア内でのゴールキーパーの正当なスライディングタックルは認められる。
 - ・GKはPKエリアを出てプレーしてもよい。(当然ながら手は使えない)
- ただし、手の場合と同じように足でも4秒以上キープすることはできない。

【14、コーナーキック】

- ・タッチラインとゴールラインの交差点にボールを静止させて蹴る。
- ・直接ゴールすることができる。
- ・相手側選手は5m以上離れなければならない。

【15、4秒ルール】

- ・キックイン、フリーキック、コーナーキック、ゴールクリアランスなどのリスタートは4秒以内に行わなければならない。

(審判は手を上げてわかりやすく4秒のカウントを数え示した上でファウルを採用する。)

【16、ペナルティマークからのキック(PK方式)】トーナメントのみ

- ・試合が引き分けに終わった後、勝者を決めるためのPK戦を行う場合、1チーム 1人ずつ(登録メンバー全員から選抜できる)で行い、決着がつかない場合 1人目からはサドンデスとなる(残りのメンバー。それでも決まらない場合は始めに戻って順番通りに行く)。PK戦に参加する人数を少ないチームに合わせる。
- ・キッカーとGKを除き、PK戦に参加する他の競技者はキックが行われる反対のハーフ内に留まっていなければならない。キッカーのチームのGKは、プレーの進行を妨げることなくピッチ内に留まっていなくてはならない。
- ・キックはコイントスに勝ったチームの主将が先か後かを決める。